「わたしへのメッセージ」

－男女共同参画社会づくりを目指して－

○気付き　○自尊感情　○意欲　　中学校１年

1　題材設定の趣旨

国際化・情報化・少子高齢化が急速に進んでいる21世紀を迎える中で、平成11年、男女共同参画社会基本法が公布施行された。「男は仕事、女は家庭」というような性別による役割分担意識にとらわれず、職場、学校、地域、家庭などさまざまな場で、個性と能力を発揮できる社会、男女共同参画社会づくりが求められている。

しかし、私たちの生活の中には、まだまだ次のような男女の問題がある。

社会における男女問題

1　ジェンダーに基づいて生き方や役割を規定している。
2　「男だからとか女だから」の思い込みや偏見が意識の中に根強く残っている。
3　男女が社会の対等の構成員として均等に参画する機会を保障されていない。

中学校１年生に下記のようなアンケートを行ったところその結果は次のようになった。

中学校生徒の意識

1	女はやさしく、男はたくましい方がよい	46%
2	家庭で掃除をするのは、女性が向いている。	48%
3	卒業証書授与は、男子が先で次に女子がよい	35%

このような実態から、何げなく見過ごしている日常生活の中で、固定的な性役割分担意識が自分自身の中にあることに気付き自分の生き方や感じ方を見つめ直すことを通して自分にできることから変えていこうとする実践力を育むことを願い本題材を設定した。

2　学習のねらい

・体験的参加型学習を通し、自分の思いや考えを伝え合いながら、自分の考えを見つめ直す。
・普段の生活の中で何げなく見過ごしていたジェンダーにとらわれた意識に気付き、身の周りには男女の問題が多く存在することに目を向けることができる。
・当たり前だと思っていたことの中に人権にかかわる問題が多く存在することに気付く。
・学校生活・家庭、地域の中にある人権問題を、自分の生活と重ね合わせて考え、自分にできることから変えていこうとする実践力を培う。

3　指導計画　〈４時間扱い〉　中学校１年

時間	学習内容	活動内容（人権教育の視点）	評価
1	「４つのコーナージェンダーチェック」	◎ジェンダーにとらわれた自分の意識を見つめ直し男女共同参画社会づくりへの問題意識を持つ。 ・ジェンダーに関する教師の質問に対し、ワークショップ「４つのコーナー」（◎：そう思う　○：どちらかというとそう思う　×：そう思わない　△：どちらかというとそう思わない）なぜそのコー	男女差について自分なりの考えが持て、問題意識が持てたか。

	（親子で考えるジェンダーチェック）	ナーを選んだか理由を発表し合う。 ・保護者も共に活動に参加し、考えを発表し合う。（資料参照）　**〈気付き・自尊感情〉**	
1	「分かるかな？女性問題クイズ」	◎「女性問題クイズ」に取り組み、統計資料などから女性問題への問題意識をもつ。（大同教：じぇんだぁ・ふりぃBOX） ・当たり前と思っていることの中に、男女の性別区別に起因する人権問題が多く存在することに気づき、女性問題・女性の人権に関しての関心を高める。（資料参照）　**〈意　欲〉**	人権問題が日常の中に多く存在することに関心を持てたか。
1	・「ジェンダーと男女共同参画社会」	◎男女共同参画社会づくりリーフレット「あなたへのメッセージ」（長野県社会部男女共同参画課）を活用して「ジェンダー」とは何か、「男女共同参画社会」の概念・考え方について学ぶ。 ・自分の生活を振り返り、ジェンダーにとらわれた考え方や行動はないか日常生活を振り返る。（資料参照）　**〈気付き〉**	日常生活を振り返り、男女共同参画社会について考えたか。
1	単元のまとめ ・「らしさって何だろう？」 ・「わたしへのメッセージ」	◎学んだことをもとに、自分の生き方を考える ・ビデオ「らしさって何だろう？」を視聴して考えたことを発表し合う。 ・単元の学習を通して学んだことや今後自分の生き方に生かしていきたいことについてまとめ発表し合う。（資料参照）　**〈自尊感情・意欲〉**	自分らしさに自信が持て、今後の生き方を考えたか。

4　実践記録

【第１時】

時間	生徒の活動	指導・支援
導入 7分	○順位を競ってジャンケンゲームを楽しむ。	今日は保護者の皆さんと一緒に学習をすすめます。まずはじめにジャンケンゲームをしましょう」（アイスブレーキング）
展開 40分	指導・支援 「今日の同和教育の学習では、４つのコーナーという活動をしましょう。今日の学習のねらいは、活動が進んでいくと自然と分かってくると思います。４つのコーナーに自分の考えで移動しながら、友達や保護者の皆さん方で考えを交換し合いましょう。」 ・教室内に４つのコーナー （◎：そう思う　○：どちらかというとそう思う　×：そう思わない　△：どちらかというとそう思わない）を設け、活動の方法、ルールの説明をする。 （選択の理由を述べ合う） ルール ①相談しないで自分の考えで移動する。 ②なぜそう考えたのかを伝え合おう。 ③互いの考えを聞き合おう。 ここでは、**⑥⑦⑨⑬⑮の質問だけを記載する。** ⑥－◎　O生　普通、そういうものだと思う。 ⑥－×　W生　男女みんなで使ったものだから、男女みんなで協力してやるのは当たり前。 ⑦－×　K生　男子でも得意な人もいるし、女子でも苦手な人はいる。男性のシェフもたくさんいる。	

	⑦－◎ Y生　男子より女子のほうが小さい時からやる機会があると思うから。 ⑨－◎ S生　女性のほうがやさしく介護できるから。 ⑨－× M生　女性が病気になることだってあるし、家族のことだから家族みんなで協力してやったほうがいい。 ⑬－◎ Y生　まあ、そうあるべきなのかな。 ⑬－× M生　男子だってやさしいほうがいい。でも、なよなよした男子も少しいやだな。 ⑮－◎ U生　実際ぼくの家の中がそうだから。 ⑮－◎ M生　お父さんとかがやってるとなんか変な感じがする。めんどうくさいときは、弟とかにもやって欲しい。
まとめ 3分	K生：今日の授業の目的はなんだったのかということを考えてみた。どの質問も男女の違いみたいなものを扱っていて、結局男女平等を考える授業だった。 W生：今日の授業の目的は「男女平等」について考えることだと分かりました。それに、みんなのいろいろな意見が聞けて良かったです。でも、時間が短かったから、ちょっと物足りなかったかな。 N生：今日の授業はとてもおもしろかった。何故かというと、みんなの意見をたくさん聞けたし、自分の意思で答えを選んで動けたので良かった。

『4つのコーナー　ジェンダーチェック』に参加いただいた保護者の感想

○ひとつひとつの問いが簡単なものだった。十数年の結婚生活や親としての経験の中で自然に培われてきた妻の立場、親の立場が優先していた。年齢とともに自分の物事の捉え方が変化してきたなあと気付かされた。日頃、常識とされていることの多くは、しきたりや慣習に基付くものが多く、こだわりになっているものもあることがわかった。村の会合に夫の代わりに出席して「女じゃ話にならないから帰っていい」と言われた方が知り合いにいる。これではこだわりを通り越して、偏見・差別だと思う。このような大人たちの中で育っていたら、子どももそれを常識と捉えてしまっても仕方がない。考え方というものは、育っていく環境に左右されるものであるということを考えれば、反省させられる事が多い。

【考　察】

①4つのコーナーの手法で行ったことは、生徒の自然な参加を促し、これからの単元の学習の導入としてよい意識付けとなり、問題意識を持たせることにつながった。

②保護者の方に選択の理由を述べていただいたが、生徒は保護者の方の意見に一生懸命耳を傾ける姿が見られた。また、保護者の方が精一杯に自分の考えを述べる姿が生徒に影響を与え、堂々と自分の考えを述べる生徒が多かった。

③多様な答えが引き出せる出題内容を工夫し、意見をかかわらせるようにしたい。

【第２時】

《『分かるかな？　女性問題クイズ』での生徒の反応》

Ｙ生：自分は第３問の男性の家事時間が４分に、ちょっと驚いた。一日４分しかできないなんて、少ないと思った。でも、日本で一番多い25分も女性に比べれば少ないと思った。４分の家事時間で、もし、いずれ男性が一人だけになった時、ものすごく困ると思った。

Ａ生：第10問の、日本の国会議員に占める女性の割合は世界の国の中では30位以内だろうと思ったら、110位でびっくりしました。日本では、女性の国会議員が少ないということが分かりました。それから、日本では女性が内閣総理大臣になったことはまだないというのは当たっていたけど、立候補した人はいなかったのかなあと思いました。

Ｋ生：私は女子が「男子を先にして欲しい」という考えは無いだろうと思ったけど、答え合わせをして、女子の70％もそのような考えで意外だった。私は女子を先にして欲しいわけではないが、男子を特別先にする理由もないし、男子と女子混合で出席をとってもいいと思う。第７問の男性と女性の一週間の総労働時間数の差は10時間以上もあることは知らなかった。いつも母さんが働いているところを見ても、時間のことはそんなに気にはとめなかったから、驚いた。

Ｓ生：私が一番びっくりしたことは、世界で読み書きを一度も教えてもらっていない人が３人に２人は女性だということです。なぜ、女性は読み書きを習えないのか、とても不思議に思いました。次にびっくりしたことは、男性より女性の方が労働時間が長いということです。女性の方が１週間で13時間も余計に働いているなんて、びっくりしました。今度から、お母さんのお手伝いを沢山しようと思いました。

Ｕ生：第２問で、日本は「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という考え方に70％の人が賛成しているが、スウェーデンではこの考え方に反対している人は、僕はＣの55％を選んだが、実際には85％という大半の人が反対している。こんなにも多くの人がこの考え方に反対しているなんて夢にも思わなかった。

【考　察】

①このようなタイプの疑問（クイズ）について考えた経験のない生徒にとって、大きな驚きと疑問を引き出すことができた。「なぜ、このような違いが起きるのだろう。」「なぜ、このような大きな違いがあるのだろう。」と、問題意識を持たせることはできたが、なぜそうなっているのかを深めるまでには至らなかった。このような格差の根っこに男女差別の問題、ジェンダーの問題があることを意識する程度にとどまった。

②女性に不利な世の中であることに不合理や憤りを感じた生徒が多かった。また、そのことを自分の家庭生活と結びつけて、驚きを新たにした生徒が多く見られた。

③男女別名簿が当たり前だった意識が、男女混合が当たり前と意識変化が起こりつつある状況の中での回答と推測できる。

【第３時】

《ジェンダーにとらわれた考え方や行動はないか、日常生活を振り返る生徒の反応から》

【学校生活の中から】
- 何かと男子が一番ということが多いのでは？
- 文化系の部活（美術部・吹奏楽部）に男子が入っていると変だと思ってしまう。
- 整列の時、男女別々に整列することが多い。特に生徒集会や全校集会、入学式や卒業式は別々の整列が多い。
- 仕事分担をする時に、男女で違う仕事内容を割り振ることが多い。例えば、女子はかざり作りをして、男子はかざり付けをするとか。委員会などでプリントの記録を取るのは女子、発行物を書くのは女子が多い。
- 男子がかわいいキャラクター物などの消しゴムとかペンとか持っていると「何で男子なのにそんな物もってるの？」とか言ってしまう時がある。

【家庭生活の中から】
- 家で「女の子だからお手伝いしなさい」などとよく言われる。なのに弟はあまり言われない。
- 「女の子だから言葉づかいをよくしなさい」と言われる。
- 夕食の手伝いをやらされそうになると、自分は男だから「何でやらなきゃいけないんだ」とか思ってしまう。
- 家では女の人が買い物に行くけど、男は夕食のおかずなどあまり買い物に行かない。
- 弟に「男なんだからうじうじするな」などと言ってしまうことがある。
- 「女の子だから、もっとお部屋をきれいにしなさい」と言われる時がある。
- 食事の準備はいつも母親がやる。家の中の仕事はほとんど母親か祖母がやっている。力仕事などはほとんど父親がやる。自分は女だから料理や家事などをしなくてはいけないんだと思ってしまう。

【地域の生活や社会生活・文化から】
- お医者さんは男性が多くて、看護婦さんは女性が多い。
- 政治の中心に男の人は多いけど、女の人は少ない。
- 地区のどんど焼きで、骨組みは男性が全てやっていた。消防署の方も全員男性だ。
- 駅の改札係は男の人しか見たことがない。
- 国技である相撲の土俵（世界）に女性は上がれない。
- 仕事で女性はパート勤めの人が多いが、男性のパートはあまり多くないのでは。

【考　察】

①自分自身の意識、見方、行動の仕方を振り返っての反応が少なかった。このことから、自分自身の姿と結びつけて考えるような発問が必要であることが分かった。

②男女共同参画社会づくりの概念について学習することが、効果的であることがわかった。男女共同参画社会づくりの必要性を実感させないで、概念のみ導入しても身にしみる学習とは成り得ない。

③生徒はこの学習を通して、ジェンダーにとらわれた見方・考え方・行動を探そうとする視点を持ち始めた。

【第４時】

《ビデオ「らしさってなんだろう？」の感想》

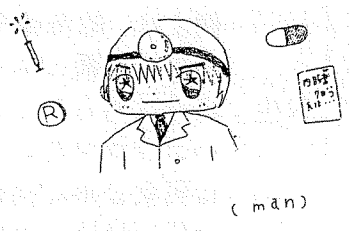
Ｙ生：「らしさ」は、人が何となくやって来たことが当たり前の「決まりごと」のようになってしまったことだと思う。だからと言って、僕はどうしていいか分からない。

Ｋ生：私はお父さんがおしめを取り換えて、お母さんが新聞を読んでいるスウェーデンの家族の写真を見て「変なの！」と思いました。お母さんがお父さんの肩たたきをしている日本の写真のほうが普通だと思ったけど、「お母さんが家来みたいだ」という感想を聞いて、「なるほど」と思いました。何となく見ているとこれも差別なのかなあと思いました。

Ｙ生：今日ビデオを見て、確かに私もあのビデオの中の生徒さんたちと一緒で、「男はたくましく頭がいい」とかいうイメージがあって、女は「優しくて静かだ」とかいうイメージがあったなあと思いました。

Ｉ生：「らしさ」というのは、自分たちが勝手に思い込んでいる男女の区別だということがよく分かった。よく考えてみれば、男らしさとか女らしさとかいうのは、ただ決めつけているだけのことで、男女両方同じなんだと思いました。

描いてみましょう！ Doctor
（生徒作品より）



《単元のまとめ 「わたしへのメッセージ」》

（単元で学んだことや今後に生かしたいことを自分自身へのメッセージとしてまとめる）

Ｙ生：この４時間の学習を通して、自分の気づかないところで「男だから…、女だから…」という意識が働いていたことが分かりました。自分もあまり気にしなかった「父が会社、母が家事」ということが、「男だから、女だから」というのが自分の中で当たり前のようになっていたから、自分でも気にしなかったということが分かりました。この男女の関係を無くせたらいいなあと思いました。

Ｙ生：今回の学習を通して、けっこう気付いていなかったり当たり前だと思っていたことが多かった。ただ、ビデオや話しを聞くと、それはきれい事（そういう言い方はおかしいけれど）ではないかと思うことも正直あった。でも、そういう事を自分で気付きながら判断して気をつけていければいいと思う。「女子なのに強い。女子なのにその言い方は…」と思うことはよくあったけど、これは自分でも気を付けたい。

Ｙ生：ジェンダーについての勉強をして、自分も男と女を区別して「男なのに、男のくせに…」「女だから…」とか言っていて、それはおかしいということに気付きました。私も、そういうジェンダーにとらわれた考えとか行動は、日常生活を振り返るとたくさんあると思います。だから、ひとつずつ無くしていきたいです。そのために、上のような言い方や見方はしないようにしていきたいです。

Ｉ生：家ではしっかりと手伝いとかをしようと思った。 学校でも、 自分なりに男はこうで女はこうという考えができるだけ無くなるようにしたい。

ＭＴ生：４時間勉強したけど、やっぱり男らしさ女らしさは無くならないほうがい

いと思った。 いまさら直そうとしても無理だと思う。 日本は昔からそういう家庭で、そういう風に育ってきたから、今から直そうとしても無理だ。けど、男だから威張るっていうようなことはしない方がいいかもしれない。

K生：私は4時間の授業を通して、教室の中のことをよく見てみたらいろいろありました。例えば、給食のエプロンを洗濯して干すのは女子が多くて、牛乳やお盆・ご飯など重い物を運ぶのは、私が見ている限りでは男子が多いです。いつから、男子はこれ、女子はこれって考えるようになったのか不思議です。そんなことにこだわらなくてもいいのになあ。

H生：この4時間の学習を通して私が学んだことは、男子と女子のいろいろな区別のことでした。
私も正直言って「男子なのに、女子なのに」と思ってしまうことがたくさんありました。今後、学校でも、男女にかまわず同じように接することができる自分になるように努力したいです。例えば、給食着を干すのも男子に声をかけたり、家では父親にも料理させたり…etc。

N生：自分は男らしくいこうと思います。でも、学校のエプロン洗いや黒板の明日の予定の記録などは男女公平に出来るようにしたいです。家では手伝いはめったにしないけど、せめて休日にはやろうと思いました。

描いてみましょう！ Doctor
（生徒作品より）

5　成果と課題

【成果】

①問題意識を持ち、自分自身を振り返りながら、気づいたことをどう生かしていくかを考える単元展開となった。

②学校生活の中で、我々教師自身が性別による役割分担意識に基づいたかかわりを何気なく生徒と取っていることを振り返させられた。もう一度、指導する立場、生徒にとって学ぶ環境である教師自身の人権感覚を問い直す必要を実感した。

③4時間の単元の学習を通して、「男女平等」や「男女共生」といった視点で自己を見返すことの必要性が生徒の中に育ちつつある。日常生活を意識してそのような視点で見返し、性別による役割分担意識に基づく弊害を自ら解消していく実践力を高めていきたい。

【課題】

①今回の展開から、単元展開（プログラムの編制）を下記のように工夫したい。
（第1時：ジェンダーチェック、第2時：ビデオ「らしさってなんだろう？」
第3時：男女共同参画社会と日常生活の見返し、第4時：性別にこだわらず社会で活躍する方を外部講師として招いてのティームティーチング
第5時：単元のまとめ「わたしへのメッセージ」）

②指導していく過程で、どうあるべきか、どう考えるべきか幾度と無く教師自身が迷い、悩むことが多かった。完全な答えを生徒に与えるという立場でなく、教師自身が生徒と共に考える立場に立つことが、互いの人権を尊重し合うということになるのではないかと思われる。生徒と共に悩む過程を大事にしたい。